

令和2年度 第1回 岸和田市観光振興計画推進委員会

- 1 日時 令和2年10月28日(水) 午前10時00分～12時00分
- 2 場所 岸和田市役所新館4階 第1委員会室
- 3 出席者 委員 【学識経験者】
石田 信博、小川 雅司
【公共的団体の代表者】
中井 秀樹、山本 義治、井上 實、荻野 元子
【関係団体の代表者】
内藤 雅之、安田 博宣、阪口 寿子、高垣 昌仁
【市民公募】
榎 和美、南 雅江、稲垣 康子
【欠席者】
高田 剛司、土井 康司
事務局 前田魅力創造部長、西河観光課長、畑部担当主幹、高橋担当長
村瀬担当員
渡邊 (JTB)

傍聴者 2名

- 4 議事 (1) 新型コロナウイルス感染症の影響について
(2) 第2期行動計画の進め方について
- 5 配布資料
(1) 配席図
(2) 岸和田市観光振興計画推進委員会委員名簿
(3) 岸和田市観光振興計画推進委員会規則
(4) 第2次岸和田市観光振興計画
(5) 第1期行動計画の検証と第2期行動計画について
(6) 岸和田市における新型コロナウイルス感染症の影響について
(7) 主な観光施設の入場者数
(8) 第2期行動計画の進捗状況
(9) 大阪観光局資料

6 内容

(1) 委員委嘱交付

(2) 開会

○前田部長

平成 28 年度に策定した第 2 次岸和田市観光振興計画は、計画期間を 7 年間としており、その中で 3 年、2 年、2 年のスパンで行動計画を策定し検証することとしている。昨年度は、初年度から 3 年間の第 1 期行動計画が終了し、その検証を行い、今年度から 2 年間の第 2 期行動計画を策定したところである。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響で、各施設の臨時休業など、観光事業は大きな打撃を受けたが、新しい生活様式を意識しながら、少しずつ観光事業が進みだしたところである。こうした背景をふまえ、本委員会では第 2 期行動計画をどのように進めていくのか、事務局案を策定しているので、それをベースに議論して頂きたい。

(3) 出席状況報告 会議成立の宣言

(4) 自己紹介

(5) 委員長、副委員長選任

委員長：石田 信博、副委員長：小川 雅司

(6) 議事① 新型コロナウイルス感染症の影響について

○事務局より「岸和田市における新型コロナウイルス感染症の影響について」、「主な観光施設の入場者数」を基に詳細を説明

(7) 議事② 第 2 期行動計画の進め方について

○事務局より「第 2 期行動計画の進捗状況」を基に詳細を説明

○委員

コロナ渦の影響を受けて、大阪問わず国内すべての特に観光業界は色々な分野で壊滅的なダメージを受けている。Go To Eat 大阪キャンペーンの事務局をしているが、ただプレミアム食事券の販売だけではなくて、府内の市町村や、コンテンツを PR していくために、Go To Eat キャンペーン事業を展開しているところである。岸和田城周辺エリアのキラークンテンツ化として、インバウンドの回復が中々見込めない状況の中で、原点に立ち返って国内に向け、今まで知らなかった魅力、ここでしかできない体験というものを改めて認識・広報して

いくことでしっかりしたコンテンツ作りと誘客促進に努めていきたい。知られていない岸和田の魅力をもっと知ってもらうために、岸和田と忍者のかかわりに関する動画を収録放映した。知られていない部分を新たに発掘、PR し、集客商品につなげこれからも地域の皆様と一緒に商品化に向けて頑張っていきたい。

○委員

岸和田市をはじめ、泉州9市4町のみなさんから、コロナウイルスの影響について相談いただいている。各市町さんとも更なる需要の掘り起こしや、今まで知られていなかった観光資源を発掘してどのような形で観光に来ていただけるであろう方に訴えかけていくのが課題である。いい意味での他の市町と競争してもらって一方で協力、連携し二つの町を訪れていただくようなミニツアーを組むなど必要になってくるのでは。また、SNSの発信は非常に大事なこと。例えば、大河ドラマで岸和田を取り上げていただくとか、アニメ・漫画に岸和田を取り上げていただいて訪れてみたいというようなストーリーを組み込めるようなものができれば持続するのではないか。個別のコンテンツについてさらに、人々の心に岸和田を訴えかけるようなストーリー性を構築できればいい。

個別のコンテンツについては、各市町の関係者が知恵を出して作り出していかなければならない。隣の町は知らないということでは、観光客にとっては行政の境目は意識していないと思うので、隣の市町と連携も必要。

○委員長

他の委員の方々にも意見いただきたい。今のお二方に対する意見でも良いですし、第2期行動計画の進め方についてご自由に色々なご意見を伺えたらと思います。今日は何かを決めるというわけではなく、そのご意見をもとにまとめていただいて、次の委員会で我々がもんでいくという方向で進めていきたいので、ご自由にご意見いただきたい。

○委員

岸和田藩と忍者というところの岸和田城をめぐる話を聞き興味を持っている。この辺りの岸和田市の歴史や観光といったときに、「ほんまもん」ということは非常に大事なのではないか。明智光秀の写真展はすでに終わっているが、明智光秀を取り上げたというところで非常に意味があると思う。観光部門と教育部門が一緒になってやっていくことは大事じゃないか。市役所全体として、イベントする場合は観光あるいは、よそから来てくれる人のことを考えながらやったら、市全体の観光にも寄与するのではないか。

○委員

歴史については、色々な岸和田の方とお話させてもらった時に、だんじり以外のものでも素敵な歴史が岸和田にはまだまだたくさんあるというお話をさせていただいており、そのよ

うにまた違う観点というものでたくさん歴史があると思うので、目をつけていただきたい。

○委員

PayPay については、お年寄りや慣れていない人はかなり困っているということはよく認識してほしい。私共のやっているレストランは通常通りに近づいている。どこの飲食店もそうだが、キャンペーンそのものについては非常にありがたい制度なので、是非長く続けてほしい。堺以南はすごい歴史の宝庫で、本物の歴史があるので、きちんと発掘するべき。泉州泉州南一帯の連携については、堺の商工会議所以南連携して、補助金をもらいやっている。一番の弊害になるのは行政の区画割である。このネックについては考えざるを得ない。推しすすめていただきたいのは民営化。民に任せられるものは民に任せて、スリム化していくことが大事である。

○委員

だんじり文化には、木の文化、音の文化、人と組織の文化、この三つで成り立っていると思っている。だんじりはだんじり祭だけではない。それをいかにうまく使うか。だんじり囃子を活用したり、各町の法被を大事にすると同時にそれを着てもらって演奏するというのが、人集めの一つの条件になるのではないかと。祭りの関係者とも話して有効に使えるようにお願いしたいと思っている。

○委員

岸和田の観光について考えたときに、関空が近くにあるので、どうしてもインバウンドにもものすごく重きを置きがちになるが、インバウンドとマイクロツーリズムのバランスを考えて、もう一度議論はしておくべき。岸和田はいいものがあるが、いいものが生かされていない。地域の方にもよく知ってもらいたい、教育的な意味での観光というのも市民に向けてやっていかないといけないと思う。歴史文化ともう一つ、特に泉州南側の地域にフードツーリズムというのは捨てられないコンテンツであり、歴史と文化併せて打ち出せるポイントである。前回から委員をさせていただいているが、今回第2次観光振興計画の第2期行動計画推進の期間に入っているが、コロナの具合がわからない中で最初3年・2年・2年という話があったが、本当に検証調整できるのかと思う。例えば、この2期行動計画推進を1年延ばすと総合計画と終わる時期が合う。中身をもむことも重要だが、そもそも当初通りの2年にするのか、一年延ばして総合計画と時期を合わせて、今度3期の行動計画推進を総合計画の時期計画と頭をそろえるか等を考えていくのが良いのでは。

○委員

岸和田に関するものの歴史文化をもう少し発掘できる時間ができたのではないかと思います。

岸和田に関するカルタを作って、小学校等に配って文化歴史について考えていただくこともできるのでは。PayPay については、使いやすさ、告知等行き渡っている人には行き渡っている。同じ人が使うことが、いらっしやいキャンペーン、GoToEat に関しても多いところが懸念されるのでは。

○委員

PayPay の次は aupay が出てきてコンテンツばかりが増えている。時間や金銭的に余裕のあるお年寄りが孫と一緒に消費してくれる。逆に若い世代はスマホを使うのは慣れているが、時間や金銭的余裕は一般的にないことが多いので、PayPay や aupay 等色々なキャンペーンするのだったら、お年寄りにとって使いやすいものを考えていくべき。

○委員

目先の観光じゃなく、長い目で観光を考えていった方がいつまでも維持できる。全国色々なところに行ったら歴史がありそれぞれの良さがある。岸和田は特化したいいいものを探しながら、委員会本来のことも考えつつ産業も考えなくてはいけない。

○委員

まずは歴史文化を大切に、経済的な側面が付随的に出てくればありがたい。募集しているツアーについて、他の市町村にも呼び掛けて連携が取れる形に発展していけばいいと考えている。忍者については目先のことじゃなくじっくり研究して取り組まれたらとうかと思う。

○委員

南海岸和田駅の乗降客は9月の段階で前年度比では-30%であった。全線でいっても平均的に-28.1%で平均的。例えば観光客がかなり多く利用される高野山だと-60%であるので、岸和田はまだまだ観光で乗降されるのではなく、日常的に利用される方がほとんどであると考えられる。

○委員長

岸和田市の観光計画を考える上で、コロナウイルスの影響を、様子を見ながら、どのように反映させていくのかということを考えていかなければならない。

○委員

市民としてその地域に住んでいる以上は当たり前のことを勉強し、その上に観光が乗っかってくるべき。土台がしっかりしていないのに上に色々なものが乗っかってぐらぐらしている地域は多いと思う。どこの町でも局地的にオーバーツーリズムが起こっているので、町

の特性やキャパシティに合わせていかなければいけない。岸和田だったら何が最適規模なのかという話は今までされたことがないので、そういう視点も必要なのでは。

○委員長

今日はここで何か結論出すというところではないので、色々出た意見を事務局の方で整理していただいて、次の第2期行動計画の進め方について、また次の委員会で皆で知恵を出し合って決めていくということにしたい。

(8) 閉会

次回の第2回委員会の日程は決定後、担当より連絡予定。